

AGU NEWS No. 38

青山学院大学

AGUニュース第38号
[2007年8月～10月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



青山キャンパス 大学一号館

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

青山学院は2008年度入試において、全学部にわたる入試改革を実施

青学の入試が変わる!

仙波 憲一副学長(学務・学生担当)インタビュー

新しい入試の変更ポイント／広報入試センター 矢口 和男入試課長
2008年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験日程

TOPICS

留学フェア開催報告
2006年度の進路・就職状況について
進化する「青山学院大学大学院」

報告・お知らせ

AGUニュースに関するアンケート調査結果
大学学費納付について

誌上公開講座

青山スタンダード
教養科目「科学・技術の視点」

INFORMATION

夏期休業期間中の窓口案内
前期終了科目成績通知について

青学の入試が 変わる！

青山学院大学は2008年度入試において、
全学部にわたる入試改革を実施します。

そこでまず、今回入試改革のコンセプトについて仙波副学長から、
また新しい入試方式・制度の概要とポイントについて
矢口入試課長からそれぞれお話をうかがいました。

入試の“ハードル”は堅持。しかし“間口”は広がります。

—2008年度入試より、
青山学院大学の入試制度が大きく変わります。

仙波 1990年代以降、多くの私立大学が活発に入試改革を進め、大学入試は多様化の時代を迎えました。そうした中において、青山学院大学ではこれまでそれほど大きな入試改革を行ってきませんでした。これはもともと本学の入試が、英語重視の特色を持ったものであることが理由のひとつですが、2003年度の相模原キャンパス開学にはじまり2008年度の総合文化政策学部、社会情報学部設置と、近年、本学自体の学部教育のシステムは大きく変化しています。そこで、21世紀の新しい青学の歴史を築く、より多様な個性を持つ学生に入学してもらうために、全学部にわたって大幅な入試改革を実施することになりました。

私たちは今回の改革によって、さらに多くの受験生が本学への入学を志してくることを期待していますが、決して受験生数の増加だけを目的とした入試改革ではありません。あくまで長期的な視点で、本学に入学したいと心から希望する優秀な学生を集めることを主眼としていることを申し上げておきたいと思います。2008年度入試より、入試のバリエーションは増えますが、合格のハードルを低くしたわけではありませんし、決して青学の入試としての特色は失われていません。

—たとえばどのような点で、
本学入試の特色が表れているのでしょうか？

仙波 やはり、まずあげたいのは「英語重視」の姿勢です。本学では多くの学部・学科・方式において「英語」の配点が高くなっています。こうした「英語重視」は、本学から受験生に対するメッセージでもあります。また、経済・法・経

営の各学部で「数学」を選択できるようになっていることも、これらの学部で数理的なセンスに優れた学生に入学してほしいというメッセージといえるでしょう。単に受験生数の増加ではなく、本学を第一志望とする優秀な学生を多く確保することが、入試改革の目的なのです。もちろん、入試のハードルを堅持する一方で、多様な個性の学生に入学してほしいという思いもあり、入試の間口は従来より広がります。これまでも一般入試において受験科目が異なる複数の方式を実施していましたが、今回の入試改革ではその拡大とともに、国際政治経済学部の「学科同時エントリー方式」、法・理工学部の「センタープラス方式」、さらに法・経営・国際政治経済・理工学部では大学入試センター試験利用入試の「後期日程」を新たに実施します。これにより、全国各地のさまざまなタイプの受験生が本学に挑戦しやすくなるでしょう。特に「後期日程」では、国公立型の受験勉強をしてきた受験生が、本学の存在を意識してくれることを期待しています。

—来年度以降も入試改革の流れは
続くのでしょうか。

仙波 もちろんです。今回はあくまでも改革の始まりであって、これで完結ではありません。たとえば首都圏以外の受験生に対して、今後さらに積極的なアプローチをする必要があると思います。現時点では大学入試センター試験利用入試によって、地方の受験生の便宜を図っています。2008年度は新規に文学部フランス文・史学科の2学科でセンター利用入試が導入されますので、首都圏以外の文学部志望の受験生にとって本学はさらに身近な存在になるはずですが、しかし、それだけでいいのか……という課題も当然あるわけです。

仙波 憲一 副学長(学務・学生担当)



将来的には、全国を受験生をターゲットにした全学部統一入試、さらに地方試験の実施も検討していくことになるでしょう。ちなみに2008年度より実施する国際政治経済学部の「学科同時エントリー方式」は、いわば学部版の統一入試といえるでしょう。また、一般入試の方式がやや複雑になってきましたので、多様な個性を持つ学生を受け入れるという前提に立ちながらも、全学部統一入試の導入など、全学的に入試制度のスリム化を図っていく必要があるとも思っています。

新学部の入試で実施する“新機軸”とは？

— 2008年度にスタートする

新しい2学部の入試についてお聞かせください。

仙波 総合文化政策学部は、新しい文化の創造・マネジメントを担い、世界に向けて発信する人材を育成する学部で、クリエイティビティや国際的なプレゼンテーション能力を身につけた人材を育成します。一般入試は、A・Bの2方式のみですが、それぞれの方式には明確な意図があります。A方式は、やはり英語重視の3教科型で、入学してからも独自の英語教育プログラムで英語での文化発信力を身につけることとなります。一方、B方式は「外国語(英語)」と「小論文」という特殊な入試形態となっています。これは、あくまで英語重視の姿勢を貫きつつ、文章表現力と構想力に優れた学生に入学してほしいという新学部の意思を表しています。この方式でどのようなユニークな学生が入学してくるか、私も楽しみにしています。

— 社会情報学部ではA・B・Cの3方式が実施されますね。

仙波 社会情報学部は、社会科学系の教育研究を基本としながら、数理的素養を重視する他大学にはないユニークな新学部です。そのため入試制度も「文理融合」のコンセプトを前面に打ち出し、学部のコンセプトが反映されたものになっています。まず、A方式は「外国語(英語)」「数学」「地理歴史」の3教科で、文系・理系に偏らないバランス型、B方式は、総合文化政策学部のA方式と同様、英語重視の文系型3教科型、そしてC方式は英語のほか、数学Ⅲまでを出題範囲に含む数学2教科という明確に理系の受験生を意識した入試となっています。この3方式の入試によって入学してきた学生たちが、互いに刺激あい、コラボレートして、狭い意味での「文系」「理系」でくられないタイプの学部になることを期待しています。

— 最後に、

受験生へのメッセージをお願いします。

仙波 私たちは青山学院大学を第一志望とする学生にできるだけ入学していただきたいと考え、入試改革に取り組みました。受験生のみなさんは、自分にぴったりの入試方法を見つけ出し、ぜひ本学の入試に挑戦していただきたいと思います。しかし、大学としてほんとうに大切なのは、入試制度ではなく、教育の中身です。本学に憧れて入学してきた学生の期待に応えられる魅力ある大学像を提示し、そして入学した学生たちを社会に貢献する人物にしっかり育てていくこと……本学は、今後も入試制度の改善とともに、大学として最も重要なこの使命を着実に果たしていくつもりです。

新しい入試の変更ポイント



広報入試センター
入試課長
矢口 和男

2008年度の入試改革は、青山学院大学開学以来、もっとも大規模な入試改革といえるでしょう。主な変更点とその内容についてわかりやすく解説しましょう。別表「2008年度入学試験ガイド」をあわせてご覧ください。

よる試験後、合格者のうち成績上位者から第1志望学科への合格者を決めていく方式で、合格ボーダーライン上の受験生は、第2、第3志望の学科に決まる場合があります。

望の受験生が、本学を受験するチャンスが広がります。

「新設学部・学科」の入試について

経済学部の新設される「現代経済デザイン学科」では、一般入試A・B方式以外に、初年度より3教科・4教科型（いずれも「数学」を含む）の大学入試センター試験利用入試を行います。

総合文化政策学部・社会情報学部の入試に対する考え方については、前頁で仙波副学長が解説されていますので、ぜひお目をお通しください。

なお、新学部・新学科の2009年度以降の入試に関しては、方式や試験教科等を変更する可能性もありますのでご注意くださいと思います。



今回の入試改革によって複数出願がしやすくなっており、多くの受験生の方にとって大幅に受験のチャンスが拡大しています。身近に大学受験を控えた受験生がいらっしゃる在学生やご父母の皆さまには、ぜひ今回の入試改革についてお伝えいただければと思います。

「一般入試」の主な変更点

学科同時エントリー方式 (国際政治経済学部)

近年、AO入試など新しい入試制度を積極的に導入している国際政治経済学部は、2008年度入試でも「学科同時エントリー方式」という新制度を実施します。これは学部版の「統一入試」で、カリキュラムやコース選択において学科を超えた学びを実現しているこの学部にあふさわしい入試といえるでしょう。

「学科同時エントリー方式」では、受験生が第1希望から第3希望までの学科順位をそれぞれ決めて、出願時に登録。「外国語(英語)」「地理歴史または公民」の学科共通問題に

「大学入試センター試験利用入試」の主な変更点

文学部で初めてセンター利用入試導入

従来、文学部では大学入試センター試験利用入試を実施していませんでしたが、2008年度に「フランス文学科」「史学科」の2学科で導入することになりました。

後期日程を新設

(法学部・経営学部・国際政治経済学部・理工学部)

法・経営・国際政治経済の3学部では4教科、理工学部では5教科で実施。国公立志

2008年度入学試験ガイド

2008年度の新設・新規利用		一般入学試験					大学入試センター試験利用入学試験							
		A方式	B方式	C方式	学科同時 エントリー 方式	センター プラス 方式	前期日程				後期日程			
							2教科型	3教科型	4教科型	6教科型	4教科型	5教科型		
学部 設置	文学部	教育学科	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		英米文学科	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		フランス文学科	○	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
		日本文学科	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		史学科	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
		心理学科	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学部 開設	経済学部	総合文化政策学部	総合文化政策学科	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		経済学科	○	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—	
		現代経済デザイン学科	○	○	—	—	—	—	○	○	—	—	—	
学部 設置	法学部	法学部	法学科	○	—	—	—	○	—	○	—	○	—	
		経営学部	経営学科	○	○	○	—	—	—	○	—	—	○	—
学部 設置	国際政治経済学部	国際政治学科	○	○	—	○	—	—	○	○	—	○	—	
		国際経済学科	○	○	—	○	—	○	○	○	—	○	—	
		国際コミュニケーション学科	○	○	—	○	—	—	○	—	—	○	—	
学部 設置	社会情報学部	社会情報学科	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
		理工学部	物理・数理学科	○	○	—	—	—	—	—	○	—	—	○
			化学・生命科学科	○	○	—	—	○	—	—	○	—	—	○
			電気電子工学科	○	○	—	—	○	—	○	—	—	—	○
			機械創造工学科	○	○	—	—	○	—	—	○	—	—	○
			経営システム工学科	○	○	—	—	—	—	—	○	—	—	—
			情報テクノロジー学科	○	○	—	—	○	—	—	○	—	—	○
学部 設置	文学部第二部		教育学科	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		英米文学科	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

2008年度 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験日程

太字部分は2008年度の新設・新規利用入試

一般入学試験 入学試験会場：青山キャンパス

*2008年4月設置・開設

学部・学科・方式		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
総合文化政策学部*	総合文化政策学科 (A方式)		2月 9日(土)	2月15日(金)	2月22日(金)
社会情報学部*	社会情報学科 (A方式・B方式・C方式)				
理工学部	物理・数理学科 (A方式) 化学・生命科学科 (A方式) 電気電子工学科 (A方式) 機械創造工学科 (A方式) 経営システム工学科 (A方式) 情報テクノロジー学科 (A方式)	1月4日(金)～1月26日(土) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)	2月10日(日)	2月17日(日)	2月25日(月)
	物理・数理学科 (B方式) 化学・生命科学科 (B方式・センタープラス方式) 電気電子工学科 (B方式・センタープラス方式) 機械創造工学科 (B方式・センタープラス方式) 経営システム工学科 (B方式) 情報テクノロジー学科 (B方式・センタープラス方式)		2月11日(月)		
文学部	教育学科 (B方式) 英米文学科 (A方式) フランス文学科 (A方式・B方式) 日本文学科 (B方式) 史学科 心理学科		2月13日(水)	2月20日(水)	2月27日(水)
	教育学科 (A方式) 英米文学科 (B方式) 日本文学科 (A方式)		2月14日(木)		
経営学部	経営学科 (A方式・B方式・C方式)		2月15日(金)	2月21日(木)	2月28日(木)
法学部	法学科 (A方式・センタープラス方式)		2月17日(日)	2月23日(土)	3月 3日(月)
国際政治経済学部	国際政治学科 (A方式・B方式・学科同時エントリー方式) 国際経済学科 (A方式・B方式・学科同時エントリー方式) 国際コミュニケーション学科 (A方式・B方式・学科同時エントリー方式)	1月4日(金)～1月31日(木) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)	2月18日(月)	2月24日(日)	
経済学部	経済学科 (A方式・B方式) 現代経済デザイン学科 (A方式・B方式)*		2月19日(火)	2月25日(月)	
総合文化政策学部*	総合文化政策学科 (B方式)		[郵送受付期間] 1月4日(金)～2月5日(火) (締切日消印有効) [窓口受付日] ◎文学部第二部に限る 2月12日(火)のみ 於:青山キャンパス	2月27日(水)	3月 5日(水)
文学部第二部	教育学科 英米文学科 (A方式・B方式)				

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は3月24日(月)です(正規合格者のみ対象)。

大学入試センター試験利用入学試験 《前期日程》

学部・学科		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
理工学部	物理・数理学科 化学・生命科学科 電気電子工学科 機械創造工学科 経営システム工学科 情報テクノロジー学科	1月4日(金)～1月19日(土) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)	1月19日(土) 1月20日(日) 「平成20年度 大学入試セン ター試験受験 案内」を参照 してください	2月17日(日)	2月25日(月)
文学部	フランス文学科(3教科型) 史学科(3教科型)			2月20日(水)	2月27日(水)
経営学部	経営学科			2月21日(木)	2月28日(木)
法学部	法学科(3教科型・4教科型)			2月23日(土)	3月 3日(月)
国際政治経済学部	国際政治学科(3教科型・4教科型) 国際経済学科(2教科型・3教科型・4教科型) 国際コミュニケーション学科			2月24日(日)	
経済学部	経済学科 現代経済デザイン学科(3教科型・4教科型)*			2月25日(月)	

※各学部・学科とも、個別学力検査等は課しません。 ※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は3月24日(月)です。

《後期日程》

学部・学科		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
理工学部	物理・数理学科(5教科型) 化学・生命科学科(5教科型) 電気電子工学科(5教科型) 機械創造工学科(5教科型) 情報テクノロジー学科(5教科型)	2月25日(月)～3月5日(水) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)	1月19日(土) 1月20日(日) 「平成20年度 大学入試セン ター試験受験 案内」を参照 してください	3月15日(土)	3月21日(金)
経営学部	経営学科(4教科型)				
法学部	法学科(4教科型)				
国際政治経済学部	国際政治学科(4教科型) 国際経済学科(4教科型) 国際コミュニケーション学科(4教科型)				

※各学部・学科とも、個別学力検査等は課しません。 ※入学手続締切日までに、入学金を含む学費等を納入してください。

中国の大学との積極的な交流を深める法学部の取り組み ～華東政法大学に続き、2大学と新規に協定を締結～



写真左から 楊 林凱(ヨウ・リンカイ)助教 法学部長 土橋 正教授

法学部では、2004年から中国の上海にある「華東政法大学」と協定校としての契約を結び、相互の交流をスタート。同大学に共同研究事務所も開設し、教員・学生の派遣やセミナーの開催など、有意義な交流活動を進めて

きました。そして今回、広い国土を持つ中国において、他地域の大学との交流も広げる目的で、北京の「中国政法大学」および「対外経済貿易大学」と協定を新規に締結。中国との新たな交流が始まることになりました。

実際に華東政法大学の教壇に立った土橋正教授は、「中国の学生はとても純粋で、学ぶことに非常に真摯です。学生一人ひとりに目の力を感じました。これは残念ですが、日本の学生には、なかなか感じられないことです。質問も積極的で迫力さえ覚えます。私自身も教員としての意識が変わる経験でした」と語り、「日中の大学間での交流から、日本の学生、教員に大きな刺激が生まれる」とその効果の重要性を体感されました。

またメリットがあるのは中国側も同じで、楊助教からは、逆に日本に來られた中国の先生方の感想をお聞きできました。「彼等は一様に、日本から法律について学ぶべきことが多くあり、日本との交流は今後も必要だと言っていました。また、日本で知ったことを積極的に中国の学生に伝えたいと話していましたね」

このように相互にメリットが生まれてこそ、協定を結ぶ本当の価値

があると言えます。「中国政法大学」「対外経済貿易大学」はともに、中国で法律を学ぶには上位にランクされる大学です。華東政法大で成果を上げた教員や学生の人的交流の充実が、新規協定校である2校にも期待されます。

新しい協定校に、この2校が選ばれた経緯について楊助教が話します。「青山学院大学法学部のスタイルと比較的共通点のある大学を探しました。どちらも単科ではなく総合大学であり、そのなかで法学の学びに定評がある大学です。また、中国語だけでなく英語での授業にも対応しており、本学の学生が留学する際の利便性も考慮しました」

こうして新しい2校との協定が締結されたばかりですが、法学部では既に、その次の動きに着手。新規2校と同じ北京にある「中国人民大学」および華南に位置する「中山大学」との交流もスタートする予定です。法学部の今後の中国に対する取り組みについて、土橋教授にお聞きしました。

「今後、中国のマーケットが世界中から注目されることは間違いありません。その背景には、当然“法律”も関わってくるはずですが、中国は、経済の成長にまだまだ法の整備が追いついていません。既に日本も“法整備の支援”との形で積極的に中国と関わっていますが、経済成長に相応しい法が整備されつつある中国の“過程”を見ることは、法を学ぶ者、あるいは法に携わる者にとって、大きな刺激となるはずですが。本学部が、今の時期に中国と交流を持つ最大の意義もそこにあると言えます」

ただ協定を結ぶだけでは意味がありません。積極的な交流を繰り返し、中身のともなった協定を各校と展開していくことが、本当の「国際交流」。法学部では今後も広い視野のもとで積極的な活動を展開していきます。

国際交流センター主催 留学フェア開催報告

2007年5月12日(土)国際交流センター主催の第1回留学フェアが、青山キャンパスにおいて実施されました。当日は天候にも恵まれ、約200名の来場者がありました。総合研究所ビル12階大会議室をメイン会場とし、11階ホワイエと併せて2会場で、さまざまな企画が実施されました。

メイン会場である12階大会議室では、アメリカ、ドイツ、中国、韓国など、本学と協定を結んだ各国の14の協定校ブースを設け、各協定校から來ている受入交換留学生36名と、本学から派遣された交換留学経験者12名、教員3名、チューター学生4名をスタッフとし、来場者の留学相談などに対応しました。

協定校ブースの他に、フランス政府留学局を始め、TOEFLテストの日本事務局であるCIEE(国際教育交換協議会)など4つの外部協力団体ブースを設け、留学に関する多様な質問にも対応しました。

また11階ホワイエ会場では、30席ほどの観客席を用意し、フランス政府留学局による「フランス留学のすすめ」、新しい方式のTOEFLテストiBTの



デモンストレーションを交えたCIEEによる「あなたとTOEFLと英語」、派遣留学生3名による「留学体験談」を実施、

各回とも熱心な来場者でほぼ満席となりました。

今回の留学フェアは、数年来国際交流センターで実施が検討されてはいたものの実現に至らず、今回初めて開催にこぎつけたものです。事前の宣伝不足が懸念されましたが、留学希望の在学生ば



かりでなく、在学生のご父母、高等部生徒などたくさんの方の来場がありました。多様な方々の来場により、単なる留学相談会にとどまらず、留学というキーワードを通して、在学生、交換留学生、教員、留学関係団体、高等部生徒、保護者など多様な人たちの交流の場ともなりました。

次年度も、今年の経験を生かして、より充実した内容で実施したいと考えています。

2006年度の進路・就職状況について



就職部長
仁科 貞文

2006年度(2007年3月卒業生)は前年度に引き続いて、進路・就職状況は好結果となりました。特に進路決定者の中で、就職決定率(新規採用決定者の割合)が前年度よりもさらに増加しており、企業の採用意欲の強さと、学生の積極的な就職活動がこの成果を生み出したと考えています。2007年度(現4年生)の進路・就職状況も全体としては順調に推移していますが個人差が見られ、進路・就職センターでは学生一人ひとりの事情に合わせた進路支援活動(個別相談など)をより充実させていきたいと考えています。

1) 2006年度卒業生の「進路決定届把握状況」について

卒業生の進路決定届の回収に努めた結果、2006年度の卒業生4,107名の中で4,094名が進路決定届を提出し、回収率は99.7%となりました。(参考:2005年度99.7%、2004年度99.7%、2003年度99.2%、2002年度72.1%)。

2) 2006年度卒業生の「進路・就職状況」について

2006年度卒業生4,107名のうち、進路決定者数(就職者および進学者)は3,489名で、「進路決定率」は大学全体で85.0%(昼間部86.7%、第二部(夜間部)73.0%)となりました。2005年度の進路決定率が84.5%、2004年度が82.2%であり、この3年間は微増ですが、2003年度の77.6%に比べると、7.4%の増加となっています。(図1、図2)

卒業生の中で、「就職者率」(新規採用決定者、自営業者、現職継続者、臨時雇用者の割合)は大学全体で75.2%(昼間部76.3%、第二部(夜間部)67.8%)で、これは2005年度の74.9%、2004年度の72.3%とほぼ同水準ですが、2003年度の64.9%に比べると10.3%の増加となっています。さらに卒業生の中で、「就職決定率」(新規採用決定者の割合)は大学全体で71.3%(昼間部74.7%、第二部(夜間部)48.3%)で、2005年度の68.3%、2004年度の63.2%、2003年度の55.4%に比べて、年々増加傾向にあります。なお、昼間部文系5学部の平均では77.3%(2005年度は73.9%、2004年度は69.5%、2003年度は61.4%)でした。(図3)

3) 2006年度卒業生の「進路保留状況」について

「進路保留率」(各種試験準備、ボランティア、主婦、進路未定者)は大学全体で14.7%(昼間部13.0%、第二部(夜間部)26.0%)で、2005年度の15.2%、2004年度の17.5%、2003年度の21.6%と比べて、徐々に減少しています。内訳は、各種試験準備が7.9%、ボランティア・主婦が0.5%、進路未定者等が6.3%でした。

図1 進路決定率(2003年~2006年度の推移)

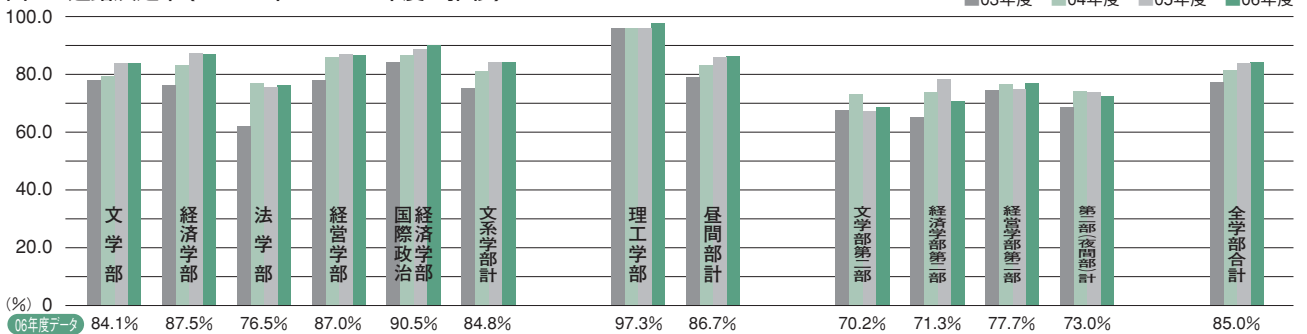


図2 2006年度 進路決定者(内訳 就職者 進学者の構成比)

■就職者率 ■進学者率

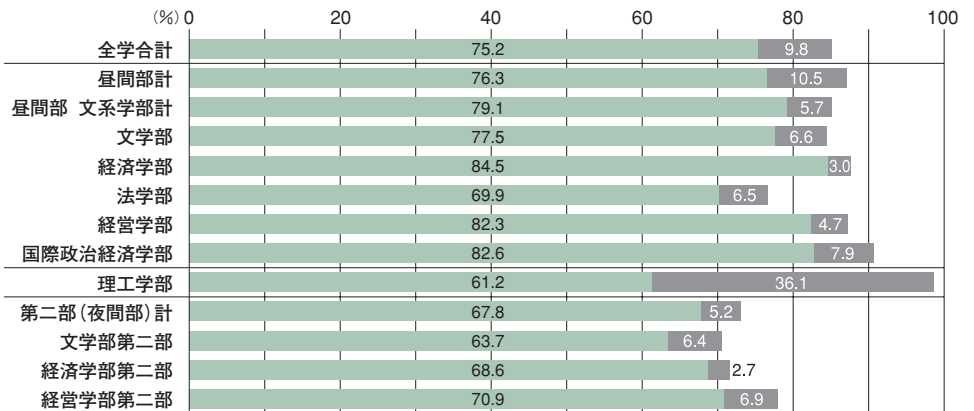
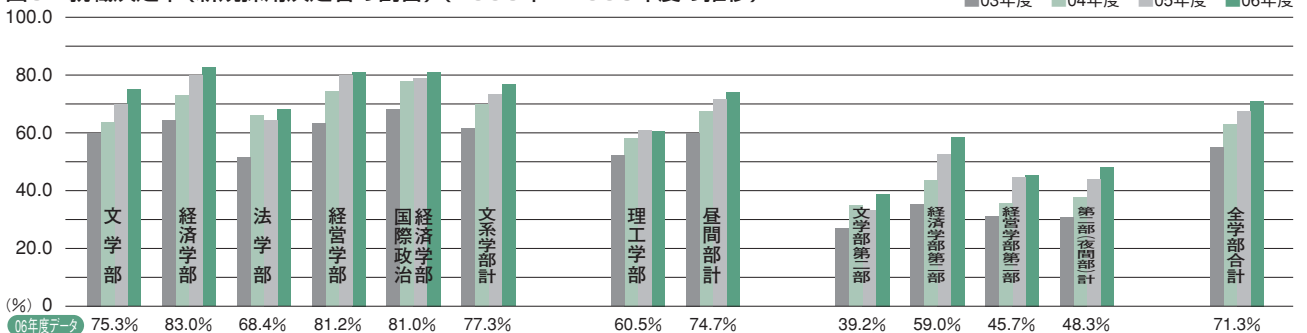


図3 就職決定率(新規採用決定者の割合)(2003年~2006年度の推移)



進化する「青山学院大学大学院」にご期待ください～本学大学院・専門職大学院への進学を考えるみなさんへ～



副学長(学務・学生担当)
仙波 憲一

21世紀は「知識基盤型社会」です。より高度な専門分野の知識とそれを活用して現実の諸問題を解決に導く応用力を持った人材がこれまで以上に求められるようになりました。こうした社会状況を背景に、今、大学院教育の重要性が高まりつつあります。

本学では現在、大学の学部に対応した6研究科を設置しています。さらに2008年度に設置される「総合文化政策学部」「社会情報学部」にも、学部設置と同時にそれぞれ博士前期課程を開設する予定です。また、経済学部「現代経済デザイン学科」開設に伴い経済学研究科「公共・地域マネジメント専攻」では、従来の経済学専攻と同様に学部4年生が大学院開講科目の一部を履修でき、博士前期課程1年間で修士号を取得できるようになる予定です。これらの各研究科・専攻に関しては、今後の学部改革と連動する形で、博士前期課程(修士課程)を中心とした大幅な改革が行われることになるでしょう。これは「学部4年間十大学院2年間」という6年間一貫の高度な専門教育システムの確立を目指すもので、学部のカリキュラムと連携した体系的なカリキュラム整備を核としています。

また、各研究科において、社会人の方々のための入試や履修制度の整備を着々と進めています。国際政治経済学研究科に関しては「アカ

デミック・リターン入試」に加え、来年度より在学中に取得した単位を一定期間“クレジット”できる制度を設ける予定です。これにより、一度就職した学生が大学院に戻って学ぶ際、在学中の取得単位を生かして短時間で修了できるようになります。

3つの専門職大学院(国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科)では、各研究科において常に教育システムの見直しを行っており、時代のニーズに応える3研究科間のコラボレートや教育体制・システムの再編成などを進化させていきたいと考えています。

こうした社会人の再教育や高度専門職業人育成と同時に、本学の教育理念を受け継いでいく教育者・研究者育成にもさらに力を入れて行かなければなりません。理工学部・理工学研究科では「21世紀COEプログラム」がその役割の一端を担ってきましたが、人文・社会科学系の研究科においても、大学院本来の使命である若手研究者の育成システムの整備は急務であると考えています。

こうした大学院改革が、将来にわたる本学のさらなる飛躍のための重要なステップとなることは間違いありません。現在、本学学部生の入学金・受験料の免除など、多くの学生が大学院に進学できるチャンスの拡大を図っています。多くの方が本学大学院に挑戦され、社会に貢献するプロフェッショナルや教育者・研究者として、それぞれの夢をかなえていただくことを心から願っています。

2007年度大学院在籍学生数

博士前期課程・修士課程・専門職学位課程 2007.5.1現在			
研究科・専攻	学内進学者数	在籍学生数	
文学	教育学※	—	22
	心理学※	4	20
	英米文学※	—	47
	フランス文学・語学	—	11
	日本文学・日本語	—	13
	史学	—	39
	小計	4	152
経済学	経済学	1	14
法学	私法	2	7
	公法	1	16
	ビジネス法務●	—	94
	小計	3	117
経営学	経営学※	2	20
理工学	理工学	148	316
国際政治経済学	国際政治学※	3	42
	国際経済学※	2	13
	国際コミュニケーション※	1	30
	小計	6	85
国際マネジメント	国際マネジメントサイエンス	—	2
国際マネジメント★	国際マネジメント※	—	201
法務★	法務	—	158
会計プロフェッション★	会計プロフェッション	—	189
合計		164	1254

学内進学者数は学内進学者選抜試験および内部推薦入試による2007年4月入学者数。在籍学生数には、博士後期課程の人数を含みません。
※印の専攻は昼夜開講制。
●印の専攻は平日夜間および土曜日の開講制。
★印の研究科は専門職大学院。

2006年度教員採用試験報告

本学は毎年数多くの教員を輩出し、社会から高い評価を得ています。今年度は66人が全国の学校に赴任しました。

2006年度教員免許取得および2007年度教員採用状況 2007.5.1現在

	免許状取得件数				採用者数						合計	
	幼、小、中、高				公立学校		私立学校		計			
	昼間部		第二部(夜間部)		昼間部	第二部(夜間部)	昼間部	第二部(夜間部)	昼間部	第二部(夜間部)		
	1種	2種	1種	2種	1種	2種	1種	2種	1種	2種		
幼稚園	49	0	17	0	0	0	5	0	5	0	5	
小学校	68	1	35	5	30	9	4	1	34	10	44	
養、ろう学校												
中学校	英語	84	1	2	0	7	0	0	0	7	0	7
	フランス語	4	0			0		0		0		0
	国語	31	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会	34	0	4	0	2	1	0	0	2	1	3
	理科	31	0			1		1		2		2
	数学											
高等学校	英語	88		3		2	0	2	0	4	0	4
	フランス語	4				0		0		0		0
	国語	41		4		0	0	0	0	0	0	0
	地理歴史	40		7		0	0	0	0	0	0	0
	公民	15		5		0	0	0	0	0	0	0
	理科	31				0		1		1		1
	数学											
	商業	3		1		0		0		0		0
	工業	1				0		0		0		0
情報	6				0		0		0		0	
計	373		77		42	10	13	1	55	11	66	

※免許状取得件数の計は人数計。(大学院生および科目等履修生は除く)
採用者数は2007年5月1日現在届け出のあった者のみ(非常勤および臨時講師は除く)。

WTO研究センター 公開セミナー開催報告

2007年5月18日(金)、青山キャンパス総合研究所ビル3階会議室にて、公開セミナー「米韓FTAの概要と両国の反応について」が開催されました(企画はWTO Forum)。

昨年来よりWTO(世界貿易機関)のドーハラウンドが中断するなか、各国間のFTA(自由貿易協定)交渉は活発化しており、FTAの締結が続いています。なかでも、今年4月初旬に合意に至った米韓のFTAは、アジア・太平洋地域のFTAでは最大規模ともいわれ、大きな注目を集めました。

本セミナーでは、米韓のFTAの合意内容や両国内の反応、そして今後の見通しなどについて、JETRO(日本貿易振興機構)海外調査部より3名の講師をお招きし、特別報告をいただきました。日本と関係の深い両国のFTAは非常に関心が高く、当日は研究者や国際機関関係者、本学学生など50名近い参加者が来場し、中身の濃いディスカッションが行われました。

また5月22日(火)には、同じく青山キャンパス総合研究所ビル3階会議室にて、当センター主催の公開セミナー「WTO・ドーハラウンドにおける途上国支援」が開催されました。

2001年からスタートしたWTO・ドーハラウンドは、「ドーハ開発アジェンダ(DDA)」と称されているように、それまでのウルグアイ・ラウンドなどとは異なり、途上国支援を前面に出した多角的貿易交渉です。「途上国支援」について、現在、WTOでは議論がなされていて、今後も途上国支援が望まれます。

本セミナーでは、これまで数多くのWTO技術支援事業に携わっ

てこられたWCO(世界関税機構)の松平 忠承氏を講師としてお招きし、WTO(スイス・ジュネーブ)での交渉会合動向など最新情報を含めてご報告いただきました。

当日の参加者には国内の関係省庁、国際機関関係者や研究者などの専門家にまじって本学学生の姿も見られ、活発に交わされる議論に耳を傾けていました。

WTO研究センターでは、今後もセミナーやシンポジウムを開催し、国際貿易に係わるグローバルな諸問題を考える産官学の意見交換の場を積極的に提供してまいります。

(WTO研究センター所長 岩田 伸人 記)



米韓FTAセミナー



途上国支援セミナー

「WTO・ドーハラウンドにおける途上国支援 —貿易円滑化交渉におけるS&D提案と途上国支援」

2001年からスタートしたWTO・ドーハラウンドは、「ドーハ開発アジェンダ」と呼称されているように、途上国支援を前面に出した多角的貿易交渉であり、それまでのウルグアイ・ラウンドなどとは異なります。

「途上国支援」について、現在、WTOではどのような議論がなされており、今後どのような途上国支援が望まれるのでしょうか。今回は、WTOでの交渉会合動向など最新情報を含めて、数多くのWTO技術支援事業に携わる実務者からご報告をいただきました。

◆開催概要

報告者：松平 忠承氏 (WCO Technical Officer)

テーマ：「WTO・ドーハラウンドにおける途上国支援」

主催：青山学院大学WTO研究センター

先端技術研究開発センター(CAT)の研究プロジェクトが 文部科学省「平成19年度ハイテク・リサーチ・センター 整備事業」に3期目の採択



プロジェクト代表・理工学部
秋光 純 教授

文部科学省が最先端の研究を支援する「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に、2007年度、本学理工学部附属先端技術研究開発センター(CAT)で推進する研究プロジェクトが選定されました。1996年度に初めて「エネルギー効率化のための新機能性材料の開発および評価」をテーマとする研究プロジェクトで選定を受けて以来、これで同事業に連続して3期選ばれたことになります。

これまでの2期・10年間では、超伝導材料、磁性材料、太陽電池材料、無機薄膜材料、エレクトロニクス材料分野での飛躍的な技術革新を目指し、多くの成果を出してきました。今回、プロジェクトの研究テーマを「材料科学の新展開：環境調和型機能性物質の創製を目指して」と変更しました。材料分野の研究においても、近年、生命倫理や自然環境への配慮がますます求められています。そのため、今回のプロジェクトでは、新たに生命科学分野の研究者を加え、生体適合性に関するリスク評価技術の確立を併せて推進することで、

環境にやさしい環境調和型機能性物質の創製を目指していきます。

今回の採択によってCATが有する研究施設・設備面のいっそうの充実を図ると共に、本学のハイテク・リサーチ・センター整備事業および21世紀COEプログラムでの経験を通して、モチベーション、実力ともに高まってきた博士課程の大学院生をはじめ若手研究者の育成と支援にも引き続き力を入れていきたいと考えています。

研究室間の共同研究、他大学・研究機関との連携の活性化など、今、本学理工学部・理工学研究科の教育・研究体制は確実に進化しており、特に材料分野では私学のトップランナーを自負しています。しかし、これからもチャレンジ精神旺盛なスタンスで、本学ならではの切り口でさまざまな先端研究に取り組んでいきたいと考えています。

【ハイテク・リサーチ・センター整備事業】

文部科学省が設置する「私立大学学術研究高度化推進事業」の一つとして、最先端の研究開発プロジェクトの実施に必要な施設、研究装置、研究費、研究スタッフなどに対する総合的な支援を行い、私立大学における先端的な学術研究基盤の強化を図る国家事業です。

第8回読売・吉野作造賞を受賞した山本吉宣教授に聞く



国際政治経済学部
山本 吉宣 教授

2007年6月、山本吉宣国際政治経済学部教授の著作である『「帝国」の国際政治学—冷戦後の国際システムとアメリカ』（東信堂）が、第8回読売・吉野作造賞（読売新聞社、中央公論新社主催）を受賞しました。同賞は中央公論社の「吉野作造賞」（1966年度より）が、2000年に読売論壇賞と統合されたもので、前身となる「吉野作造賞」第1回受賞者の衛藤瀧吉氏、第2回受賞者の永井陽之助氏は、後年ともに本学国際政治経済学部教授として活躍されました。ちなみに衛藤氏は今回受賞された山本教授の東京大学教養学部時代の恩師でもあります。

山本教授は、大学院修士課程修了後の1968年に渡米し、ミシガン大学で博士号を取得。1970～80年代にかけて、日本と米国を行き来しながら、日米貿易摩擦や安全保障などに関する研究に取り組まれてきました。今回の受賞作は、そうした米国通の研究者としての経歴をベースに、冷戦集結後、特に9・11同時多発テロ後の国際政治の動きに触発され取り組まれてきた研究の大きな成果です。

山本教授は、大学院修士課程修了後の1968年に渡米し、ミシガン大学で博士号を取得。1970～80年代にかけて、日本と米国を行き来しながら、日米貿易摩擦や安全保障などに関する研究に取り組まれてきました。今回の受賞作は、そうした米国通の研究者としての経歴をベースに、冷戦集結後、特に9・11同時多発テロ後の国際政治の動きに触発され取り組まれてきた研究の大きな成果です。

「冷戦時代には、イデオロギーによる東西対立という構図がありました。しかし現在の国際政治には、そうしたわかりやすい構図はなく、論者によってさまざまな視点や切り口から語られています。そうした現在進行形の

国際政治の諸現象を整理し、その展開の道筋を示すのが私たち理論研究者の役割といえるでしょう」

山本教授は、『「帝国」の国際政治学』において軍事力・経済力で他国を圧倒する米国を仮に“帝国”にとらえ、米国が中心となる現在の世界を“帝国システム”というキーワードで読み解きます。「国際システムの研究」をテーマとする山本先生のゼミでも、3年生がこの受賞作をテキストに学んでおり、受賞発表の際には学生からお祝いメールが届いたとか。

「私が使っている“帝国”は、19世紀のいわゆる帝国主義とは異なります。かつての帝国主義は、武力行使によって第三世界諸国を力づくで植民地化し、また変革しようとしてきました。しかし現在では、軍事力による強制ではなく、相手国の合意を得ながら内からの変革を促すことも可能です。たとえばアパルトヘイトによる人種差別が激しかった南アフリカを各国の外圧によって変革させたように……しかし残念なことに、9・11後のブッシュ政権は、反対する国々を押し切り強大な軍事力によって、フセイン政権のイラクを武力制圧してしまいました。イラク国内は未だに大きな混乱が続いています。『なぜそうなってしまったのか?』という問題意識が、この本を私に書かせたひとつの要因です」

現在、山本先生は、国際制度や環境問題、国際NGOの活動なども視野に入れ、“帝国システム”と対になる“グローバルバランス”をテーマとする著作を執筆中。今回の受賞で、その研究・執筆活動に大きな注目が集まっています。

在学生保証人を対象とした AGUニュースに関するアンケート調査結果概要（ご報告）

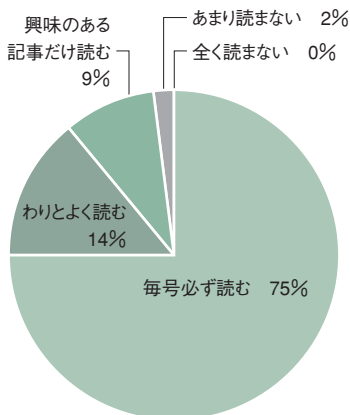
広報入試センターでは、2000年3月の創刊以来6年目を迎えた大学広報誌AGUニュースの内容をさらに充実したものとすることを目的として、日頃、本誌を御覧いただいている在学生保証人の皆様を対象として、AGUニュース第36号（2007年3月20日発行）発送時に、AGUニュース関連広報活動についてのアンケート菓書を同封し、無記名かつ任意でご提出いただく方法で、AGUニュース関連広報活動についての意見を聴取いたしました（回答数58件）。以下に主な結果をご紹介します。

まず、AGUニュースの閲読状況ですが、「毎号必ず読む」「わりとよく読む」をあわせて、89%の方に読まれております。今回の36号の記事内容についての評価は、「特集、TOPICS、報告・お知らせ、誌上公開講座」が興味を持って読まれているようです。今まで発行されたもので印象に残っている特集・記事では、「進路・就職関係について」「大学

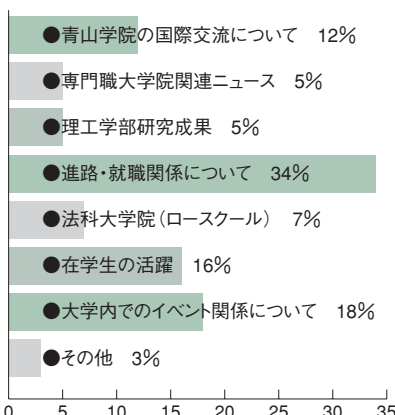
内でのイベント関係」「在学生の活躍」「青山学院大学の国際交流について」に関心が集まっており、中でも「進路・就職関係について」は群を抜いた関心の高さを示しており、本学の就職支援体制や、卒業後の進路に関して、ご父母の方々強い関心を持っていらっしゃる事が示されました。

また、これからの記事掲載希望では、「卒業生の活躍の状況」「卒業後の進路(大学院を含む)や就職活動の状況」「国際交流の状況」「在学生の普段の学生生活」また、AGUニュースに関する要望の中でも「日常的な在学生の学生生活」に関する情報の掲載のご希望や、文字を大きくしてほしいとのご要望も寄せられました。これらのご意見を参考にしながら、記事内容や編集の仕方を改善し、より親しまれる広報誌AGUニュースを目指してまいります。

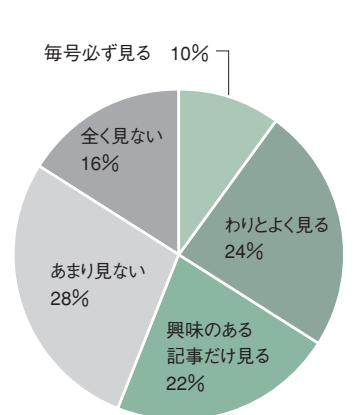
AGUニュースについて



印象に残った特集・記事



AGUニュースホームページについて



●青山スタンダード「キリスト教理解関連科目」特別講座 バッハ・コレギウム・ジャパン・レクチャーコンサート

今年で4回目を迎え、ガウチャーに満堂の聴衆が集いました。演奏されたのはカンタータ79番、137番でしたが、讃美歌2番、9番として親しまれているコラルが用いられているだけに、鈴木雅明先生の熱誠あふれる講義とBCJの力強い演奏に聞き入る聴衆の集中力も、今までになく深まり、すばらしいレクチャー・コンサートとなりました。
2007年6月15日(金)
開演 18:30
会場：ガウチャー記念礼拝堂



●課外教育プログラム

旬野菜の健康家庭料理

本年度は、定例のプログラムに加え、「食」をテーマにした新たな企画として、6月10日(日)、三鷹市の星野農園において、ジャガイモや玉葱などの野菜を収穫し、その野菜を調理し、食す機会を用意しました。



開催地の星野農園は土を大切に、茄子の生産では首都圏指折りの生産者です。

当日は料理家の指導の下、イタリアン料理を、アンティパストから始まり3点のメニューを作りました。また、食後には料理家よりドルチェの提供がありました。

参加した学生は、料理が初めての人もいましたが、それぞれ分担を決め、笑いに包まれながらの時間が過ぎました。

最後は庭にテーブルを出し、自分たちで作った料理を楽しく試食しました。

現在は、食の問題が提起されていますが、今回の内容が、食への興味の一端になればと思います。

●2007年度新入生歓迎スポーツ 〈バスケットボール、体力番付〉大会開催



バスケット一般



バスケット一般優勝 COMMY



バスケット女子優勝 JUBA



体力番付

6月10日(日)、相模原キャンパスにおいて新入生歓迎スポーツ大会が開催されました。相模原キャンパス開学以来恒例となっている、バスケットボール大会については、A棟アリーナにおいて、一般22チーム、女子8チームによるトーナメント戦形式で試合が行われ、一般チームは「COMMY」、女子チームは「JUBA」が優勝しました。

また、同日初の開催である体力番付大会が、雨天のためグラウンドからH棟体育館(ジムナジウム)に場所を移して行われました。

フィットネススタッフが趣向を凝らし企画した楽しい種目を6チームで競い、男性、女性共に大いに盛り上がりました。優勝は「かわいいバラたち」でした。



体力番付「かわいいバラたち」

●清里サマー・カレッジ

静かな大自然の中にある山梨県清里・ハガ岳寮で、学生と教員が生活を共にしながら、聖書や讃美歌に親しみ、年齢や学部・学科にとらわれずに参加者同士が語り合える機会です。2007年度は8月1日(水)～3日(金)、「自分さがしの旅 in 清里」という主題のもとに開かれます。特別講師にインマヌエル高津キリスト教会牧師の藤本満先生をお招きします。新しい自分を発見する時になるかもしれません。参加をお待ちしております。
お問い合わせ先:青山学院宗教センター TEL 03-3409-6537

●相模原祭のお知らせ

2007年度も10月6日(土)～8日(月)に相模原祭が開催されます。これまで相模原祭では、人文・社会科学系学部の1・2年生および理工学部の学生が中心となり、展示会、演奏会、ダンス大会、各種模擬店などの催し物が実施されました。相模原祭は回数を重ねるごとに、大学内外での注目が集まり、より多くの学生が参加し、盛大なものになってきており、4年目を迎える今回の相模原祭は、より充実した学園祭になるものと思われまます。現在、実行委員の学生たちが、学園祭を成功させるべく、準備に取り掛かっており、10月には、きっとご期待に応えられる相模原祭が開催されることでしょう。

Club & Circle Information

問い合わせ先
〒150-8366 青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。下記大会、演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2007年8月～11月)

ロイヤルサウンズジャズオーケストラ 山野 Big Band Jazz Concert (8月)
吹奏楽バトントワリング部 2007年度吹奏楽コンクール(8月)
弓道部 全日本学生弓道選手権大会(7月)
剣道部 全日本学生剣道選手権大会(7月)
拳法部 日本拳法東日本女子個人選手権大会(7月)
航空部 第11回原田覚一郎杯(8月)
サッカー部 第31回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント(7月)
射撃部 全日本学生選抜ライフル射撃選手権大会(7月)
漕艇部 全日本軽量級選手権大会(7月)
チアリーディング部 JAPAN CUP 日本選手権(8月)
軟式野球部 全日本大学軟式野球選手権大会(8月)
ボクシング部 関東大学ボクシングトーナメント戦(7月)

主要活動報告(2007年4月～6月)

バレー部(女子) 平成19年度春季関東大学バレーボールリーグ戦 優勝
空手道部 第47回東京都空手道選手権大会・男子団体(形) 準優勝
第47回東京都空手道選手権大会・男子個人(形) 優勝
第47回東京都空手道選手権大会・女子個人(形) 優勝
第47回東京都空手道選手権大会・男子個人(組手) 優勝
第47回東京都空手道選手権大会・女子個人(組手) 準優勝
卓球部(女子) 関東学生卓球選手権大会・女子ダブルス 準優勝
陸上競技部 第86回関東学生対抗陸上競技選手権大会・2部800m 優勝

青山スタンダード

教養コア科目「科学・技術の視点」 総合科目「毒と薬」

pick up

狂牛病と食品添加物を通して生命を考える

理工学部 化学・生命科学科教授 福岡 伸一

私の講義では、まず、私自身の研究テーマであり、社会的関心も高い狂牛病の問題を取り上げます。病気には、高血圧や糖尿病のように他人にうつらない病気と、はしかやインフルエンザ、そして狂牛病のように、病原体によって“うつる”病気があります。しかし狂牛病には、原因ウイルスも病原菌も発見されていません。ある種の異常タンパク質が増えることによって病気が発生すると考えられています。“増える毒”ともいえるこの不思議な病気をできるだけわかりやすく説明します。狂牛病が地球上に蔓延した背景にはさまざまな人災的要因があります。牛は近代畜産体制の下ではもう草食動物とはいえません。講義では日米間の牛肉輸入問題についてもその各論点に触れた上で、学生自身のオピニオンをレポートに課しています。

もうひとつのテーマは食品添加物——食品の保存や流通、見栄えにとっては非常に有用な「薬」ですが、腐敗や変質を引き起こす微生物にとっては「毒」です。授業では実際に加工食品のラベルを投影しながら、代表的な食品添加物の正体や作用のメカニズムを概説。学生自身にもレポート課題としてラベルの採集とその内容の調査を行っ



てもらいます。そのほか、食べた栄養素が自分の体重になるまでの道筋を説明し、ちまたに溢れるダイエット情報や「やせ薬」がいかにインチキかを知ってもらったり、インシュリンの作用が脂肪の蓄積命令であることから賢い食べ方がどのようなものであるのかなどを考えます。学生には、講義を出発点にさらに自分で読み、調べ、考える力を養ってほしいと思います。毎日、新聞を読み、そこに報道されている情報を自分で吟味してみてください。新聞に書かれていることですら本当とは限りません。また、講義で触れられることはごく一部です。授業に興味を抱いた学生には、狂牛病について書いた『もう牛を食べても安心か』（文春新書）、『プリオン説はほんとうか』（講談社ブルーバックス）、また生命とは何かを再考した『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書）などの参考図書があります。いずれも一般向けに書いた本なので特別の前提知識なしに読むことができます。

pick up

“安全なくすり”とは何か？

理工学部 非常勤講師・NPO法人安全学研究所理事 辛島 恵美子

現在の「最先端医療」は一つの限界につきあたっており、それを乗り越えるべくさらなる努力がなされる一方で、非科学的医療として過去に捨てたはずの「伝統医療」を改めて見直す動きがでてきています。その背後に「医療」に関する考え方、態度の違いがあります。方法論的には補完すべき関係ともいえるのですが、実際にはその考え方や態度は狭く医療技術面に限定されず、生活に深く関わる文化的違い



ともなっているところがあり、適切に使い分けることは難しいことが少なくありません。

日本社会は歴史的にまさにその難しさ

と悲劇を体験してきています。そうした歴史的事情の理解を深めたいうえで、現代事情の中で上手に薬や食物等を活用できる基礎知識の修得を目指し、「くすりと上手に付き合うための基礎知識の習得」と「情報吟味力の養成」の2つを講義の目的としています。

具体的には以下の通り、3回のサブテーマに分けて行います。

第1回：日本人と薬：東洋の伝統と西洋近代の伝統のはざま

第2回：健康と薬と食物との関係

第3回：薬を毒薬にしないための制度と常識

教科書として『薬と食べ物と水』（理工図書2007.5）を使いますが、高校生までのように知識の暗記ではなく、情報吟味力を養う発想での取り組みを目指しています。物事は条件次第でその長所面あるいは短所面が引き出されるのであり、条件抜きに「よい薬・悪い薬」の区別はありえないからです。そのために情報を多角度（多視点）から見る訓練、比較尺度を意識することを講義と教科書を通じて目指します。そのため自然科学的知識・関心ばかりでなく、人文社会科学的知識・関心も必要なテーマです。

この講義のねらいは、大学生となった諸君に、

文系・理系を問わず科学的なものの見方はどのようにあるべきかを感じてもらおうことにあります。

健全な科学的態度の基本は「懐疑心」です。

世の中にはあるとあらゆるニセ言説、エセ言説がまかり通っています。

しかし、いくつかの基本的な知見と批判的な懐疑心を出発点にすれば、ウソとホントの区別がつくようになります。

ここではそのための「気づき」を喚起してもらうため、4人の先生がいろいろな工夫をしながら講義を進めています。

その上で、自分のオピニオンを持ってもらうことが講義の目標です。

成績評価は、出席、レポートおよび講義内の小テストを総合して与えられます。

(福岡 伸一 記)

pick up

薬物依存の恐ろしさを知る

理工学部 化学・生命科学科教授 田代 朋子

私たちの周りには、体や健康に関する情報があふれています。真っ赤なウソとは言えないまでも、ごく一部だけを誇張した極端な議論を根拠に、さまざまな食品や化粧品などの機能が誇大に宣伝されています。さらには、ダイエットの薬、気分をすっきりさせる薬などと称して危険な「依存性薬物」が身近に売られていたりもします。このような状況の中で、大学生になったみなさんには、自分の健康、ひいては次の世代の健康を自分で守っていくという自覚を持ってもらいたいという願いから、総合科目「毒と薬」は企画されました。これを契機に、21世紀の常識となりつつある現代生物学の視点を学び、自ら考えて判断できる社会人へと成長していただきたいと思っています。

私達が使用している薬のほとんどは、生物の作る毒そのもの、またはそれを出発点として化学的に手を加えて作られたものです。狩の道具として、身を守る武器として、あるいは縄張り争いの手段として、



生物はさまざまな毒を進化させて生き延びてきました。その多くは、神経系を標的にしています。なぜなら、体の中の情報ネットワークである神経系をかく乱すれば、微量で大きな効果を発揮することができるからです。私が担当する講義のうち3回は、神経生化学の立場から、神経系に作用する毒や薬はどこに、どのように作用するのかを説明し、依存性薬物いわゆる麻薬とはどういうものか、一度試すと止められなくなる「薬物依存」はどうして起こるのか、を考えていきます。そして、これに続いて「薬物依存と犯罪」という、社会の生々しい現実を法学部の西澤先生に話していただくことで、みなさんに認識を新たにしていただきたいと思います。私のもう一つの講義では、大人の脳にとつてはなんでもない環境化学物質の一部が、発育期の脳には後まで残るような重大な影響を及ぼす可能性について問題提起をしていきます。私の講義では毎回、図や顕微鏡写真を集めたプリントを配り、イメージとして理解できるよう工夫しています。

pick up

薬物と犯罪

法学部教授 西澤 宗英

総合科目「毒と薬」において、私は唯一の社会科学系教員として「毒物・薬物と犯罪」というテーマの講義を担当しています。この講義では、「毒」と「薬」について生物学・化学的側面から行われる他の担当の先生方による講義を受けて、その薬理作用ゆえの「法的規制」の概況と、向精神薬や覚せい剤などそれに違反した「薬物犯罪」の裁判手続を説明することを主な目的としています。

まず、講義前半では、毒物・薬物の規制に関する「法的規制」の概況、すなわち、「麻薬および向精神薬取締法」をはじめとする法律とその内容（規制の対象、処罰の内容）を示し、続いて「薬物犯罪」の実情を法務省および最高裁判所の統計によって示します。

そして講義の後半では、私自身が国選弁護人として担当した「覚せい剤取締法違反被告人事件」における経験を踏まえながら、薬物犯罪の「捜査から公判までの手続」についての概要を示します。

この講義から受講生の皆さんに学び取ってほしいことは、毒物・薬物に関する法的規制についての正しい理解、とりわけ、面白半分て薬物に手を出すが、法的にも重大な結果を招くということ、また、い

かに危険なことであるかということです。3人の先生方の講義とあわせて、毒と薬の社会的な意味、そして自分の健康を自ら守ることの大切さについて深く考えていただければ幸いです。



大学学費納付について (大学院の学費納付については、大学院要覧を参照してください)

1. 学費振込依頼書発送時期

- (1) 後期振込依頼書発送予定日 9月7日(金)【納入期限9月28日(金)】
- (2) 学費振込依頼書は、上記の日程で保証人宛(申し出のあった場合は学生宛)に送付いたします。
- (3) 学費振込依頼書に記載の銀行本・支店での振込みは、振込手数料は無料です。
その他の都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、農業組合等での振込みは、振込手数料が必要になります。

※注意 ATM(自動振込機)による振込は絶対にしないようご注意ください。

願います。
(学生番号、学生氏名の確認ができないため)

2. 下記事項問い合わせ先(学費未納等事故防止のため)

- (1) 住所変更(保証人・本人) → 学生部厚生課(青山キャンパス)
学生生活グループ(相模原キャンパス)
- (2) 休学・退学希望者 → 昼間部(3・4年)および第二部は学務部
教務課(青山キャンパス)
昼間部(1・2年、理工学部全学年)は
学務グループ(相模原キャンパス)
- (3) 学費振込依頼書紛失 → 財務部本部資金グループ
- (4) 転部・編入学・転学部・転学科・再入学・留年等の学生の学費は、
財務部本部資金グループにお問い合わせください。

3. 延納を希望する場合は、納入期限までに各キャンパスの学生部または学生生活グループへ願い出てください。

無断で学費を滞納すると除籍になる場合もありますので注意してください。

青山キャンパス 学生部学生課 03-3409-7835
相模原キャンパス 学生生活グループ 042-759-6004

2007年度後期学費一覧表(入学年度別)

単位:円

学 部	2007年度入学生	2006年度入学生	2005年度入学生	2004年度入学生
	後 期	後 期	後 期	後 期
文 学 部	391,500	391,500	391,500	391,500
経 済 学 部				
法 学 部				
経 営 学 部				
国際政治経済学部	565,500	565,500	565,500	565,500
理 工 学 部				
文学部第二部	249,000	246,000	246,000	246,000
経済学部第二部				
経営学部第二部				

※卒業記念積立金3,000円含む

・上記以外に、教育職員免許状取得の希望を申請した者は教職課程料、また、各種資格取得の希望を申請した者は、資格課程料が後期学費に加算されます。

①2006年度以降入学生

教職課程料7,000円、司書教諭2,000円、司書2,000円、社会教育主事2,000円、学芸員2,000円(※申請年度ごとに徴収)

②2005年度以前入学生

教職課程料14,000円、司書教諭6,000円、司書4,000円、社会教育主事4,000円、学芸員4,000円(※在学中1回徴収)

・後期学費一覧表は、転部・編入学・転学部・転学科・再入学・留年等は除きます。

財務部本部資金グループ 03-3409-6479(直通)

学部4年次留年生(在籍5年目以上(休学期間を除き)で4年次に留年した学生)の後期学費納付について

1. 学費振込依頼書発送時期

後期履修登録後の発送になります。

10月19日(金)発送予定【納付期限11月15日(木)】

2. 納入金額

- ①前期分所定の学費等(前期授業料および諸費)で納入の学生
→後期学費は、4年次所定の後期学費(後期授業料)となります。

前期科目申請単位数、通年科目申請単位数だけで、すでに「年間所定の学費上限単位数」に達しておりますので、後期科目申請単位数に関わらず前期・後期とも所定の学費となっています。

②前期に、申請単位計算学費(費目は授業料のみ)で納入の学生

→後期学費は、「後期科目」履修申請単位数による単位料となります。(申請単位数×単位料)

但し、前期科目申請単位数、通年科目申請単位数と後期科目申請単位数の合計が「年間所定の学費上限単位数」に達した場合は、所定の年間学費と前期納入済学費との差額をもって上限といたします。

納入予定額の確認につきましては、財務部本部資金グループにお問い合わせください。

財務部本部資金グループ 03-3409-6479(直通)

2007年度地区父母懇談会 開催のお知らせ

2007年度地区父母懇談会の今後の開催日程をお知らせいたします。
お申し込みは、ご案内に同封の専用ハガキ、もしくは青山学院大学ホームページ上で受付中です。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

開催時間●10:00~14:30

対象：首都圏(東京都・埼玉県・千葉県・埼玉県在住2・3年生保護者の方は別途開催済)以外の全道府県在住、全学年の保護者の方。お住まい近くの会場に限らず、どの会場にご出席いただいても結構です。

【父母懇談会に関するお問い合わせ先】

庶務部庶務課 父母懇談会担当

TEL.03-3409-8568(ダイヤルイン)

父母懇談会URL <http://www.aoyama.ac.jp/target/parents/>

会 場	実施日	開催場所
高 崎	7月21日(土)	高崎ビューホテル
那 覇	7月28日(土)	ロワジュールホテル那覇
甲 府	7月29日(日)	ホテル談露館
静 岡	8月4日(土)	静岡グランドホテル中島屋
名古屋	8月5日(日)	名古屋マリオットアソシアホテル
神 戸	8月18日(土)	ホテルオークラ神戸
岡 山	8月19日(日)	ホテルグランヴィア岡山
米 子	8月25日(土)	米子全日空ホテル
徳 島	8月26日(日)	ホテルクレメント徳島
富 山	9月1日(土)	富山全日空ホテル
宇都宮	9月9日(日)	ホテル東日本宇都宮
高 松	9月9日(日)	全日空ホテルクレメント高松
札 幌	9月15日(土)	ホテルオークラ札幌
旭 川	9月16日(日)	旭川グランドホテル
八 戸	9月22日(土)	八戸第2ワシントンホテル
仙 台	9月23日(日)	仙台国際ホテル

夏期休業期間中の窓口案内 対象期間 8/1(水)～9/22(土) ※事務室移転のため変更になる場合があります。 一斉休業期間 8/1(水)～8/7(火) ※詳細は各キャンパスの掲示板をご覧ください。 ※窓口事務は祝日は取り扱っていません。

部 署	窓口事務取扱期間	曜 日	取 扱 時 間	備 考
庶 務 部	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00	9/14(金)より平常通り
	8/8～9/13	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	
教 務 課	9/14～9/22	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	9/25(火)より平常通り
		土	9:00～19:00(11:30～14:00は除く)	
教 職 課 程 課	8/8～9/13	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	9/25(火)より平常通り
	9/14～9/22	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	
学 生 部	8/8～9/13	月・水・金	9:00～19:00(12:00～13:00は除く)	
	9/14～9/22	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	9/25(火)より平常通り
進路・就職センター事務室	8/8～9/13	月～金	9:00～11:30, 12:30～15:30	
	9/14～9/22	月～土	9:00～11:30, 12:30～16:00	土曜のみ9:00～12:00
進路・就職センター資料室	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00	
	9/14～9/22	月～土	9:00～17:00	土曜のみ9:00～13:00
図 書 館	8/8～9/13	月～土	9:00～19:00(土曜のみ12:00～19:00)	9/14(金)より平常通り 休館中の本の返却は図書館正面のブックポストに入れてください
専 門 職 大 学 院 事 務 室	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(金)より平常通り
大 学 院 事 務 室	8/8～9/13	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	
	9/14～9/22	月～土	9:00～18:30(11:30～12:30, 16:00～17:00は除く)	土曜のみ9:00～13:00(11:30～12:30は除く)
広 報 入 試 セ ン タ ー	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00	9/14(金)より平常通り
総 合 研 究 所 事 務 室	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	総合研究所図書室は夏期休業期間閉室
情 報 科 学 研 究 セ ン タ ー	8/8～9/13	月～金	9:00～19:00	9/25(火)より平常通り
	9/14～9/22	月～土	9:00～19:00	
国 際 交 流 セ ン タ ー	8/8～9/13	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	9/14(金)より平常通り
外 国 語 ラ ボ ラ ト リ ー	8/8～9/13	火・金	9:00～19:00	
	9/14～9/22	月～金	9:00～19:00	9/25(火)より平常通り
学 生 相 談 セ ン タ ー	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00	
	9/14～9/22	月～土	9:00～17:00(土曜のみ11:30まで)	9/25(火)より平常通り
保 健 管 理 セ ン タ ー	8/8～9/13	月～金	9:00～15:30	9/25(火)より平常通り
	※8/21～8/28	月～金	9:00～15:30, 17:30～20:00	11:30～12:30は除く
	9/14～9/22	月～土	9:00～16:00(土曜のみ11:30まで)	
	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00	9/25(火)より平常通り
	9/14～9/22	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)	
宗 教 セ ン タ ー	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00	
	9/14～9/22	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)	9/25(火)より平常通り

ユニット	グループ	窓口事務取扱期間	曜 日	取 扱 時 間	備 考
学 生 支 援 ユ ニ ッ ト	スチューデントセンター				
	学 務 グ ル ー プ	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(金)～9/22(土) 月～金 9:00～16:00
	進 路 グ ル ー プ				(11:30～12:30は除く)
	国 際 交 流 グ ル ー プ	8/8～9/13	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	(土曜日のみ11:30まで)
	学 生 生 活 グ ル ー プ				9/25(火)より平常通り
	健康管理グループ(保健管理センター事務室)				
	健康管理グループ(学生相談センター事務室)				
教 育 ・ 学 習 支 援 ユ ニ ッ ト	授 業 支 援 グ ル ー プ	8/8～9/13	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(金)より平常通り
	情報教育支援グループ(情報科学研究センター)	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00	
		9/14～9/22	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)	9/25(火)より平常通り
	図 書 グ ル ー プ (図 書 館)	8/8～9/13	月～土	9:00～16:00(土曜のみ12:00から)	9/25(火)より平常通り
	9/14～9/22	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)		
研 究 支 援 ユ ニ ッ ト	メ ディ ア ラ イ ブ ラ リ ー グ ル ー プ	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00	9/14(金)より平常通り
	研 究 支 援 グ ル ー プ	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00	
企 画 ・ 渉 外 ・ 庶 務 ユ ニ ッ ト	企 画 グ ル ー プ				
	地 域 渉 外 交 流 グ ル ー プ	8/8～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(金)より平常通り
施 設 ユ ニ ッ ト	庶 務 グ ル ー プ				
	施 設 グ ル ー プ				
	財務部大学相模原経理グループ				
宗 教 セ ン タ ー		8/8～9/13	月～金	9:00～16:00	
		9/14～9/22	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)	9/25(火)より平常通り

2007年度公開講座後期開講講座について

本学では、大学での教育および研究の成果を広く社会に開放し、社会人の教養を高め、文化の向上に資することを目的に、地域社会への貢献という使命から、1990年より公開講座を開講しています。

テーマに基づき1シリーズ5講座で構成され、年齢や資格による受講の制限はなく、どなたでも受講いただけます。

後期(10月～12月)開講の内容は下記の通りです。

各講座の講師や申込方法など、詳細についてはガイドブックをご請求、もしくは青山学院大学ホームページをご参照ください。

【青山キャンパス開講(毎週土曜日・全5回・14:30～16:00)】

- 大国への対抗軸 別の角度から見た世界像(10月13日～11月17日)
- 生きることと個人史(11月24日～12月22日)

【相模原キャンパス開講(毎週土曜日・全5回・14:30～16:00)】

- キリスト教と現代——人物史の視点から——(10月13日～11月17日)

【特別公開講座(青山キャンパス開講:毎週土曜日・全5回・13:00～14:30)】

- ファンション:ビジネスとクリエイティビティ(11月10日～12月8日)

※いずれの講座も事前の申し込みが必要です。

＜ガイドブック申込方法＞ **ウェブサイト** <http://www.aoyama.ac.jp/extension/indeed.html>
お電話 下記お問い合わせ先までお電話ください。

公開講座に関するお問い合わせ先

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

青山学院大学 庶務部庶務課(公開講座担当) TEL.03-3409-7955

第14回青山学院大学同窓祭開催のお知らせ

9月23日(日・祝)午前10:00～青山キャンパスにて開催!! ライブコンサート『ザ・ブロードサイド・フォー、黒澤久雄とローガンズ+北原照久』、中田宏横浜市長・北原照久氏による特別講演、昨年大好評だった『Shall we dance? 2007』、『ポケットモンスターキャラクターショー』等幅広い年代の皆様が楽しみいただけるような企画に加え、青山寄席・公開講座・法律税務等無料相談・模擬店・出店・福引抽選会等、例年好評の企画も目白押しです!

夕刻からは青学会館にて懇親パーティーを開催します。詳細は同窓祭ホームページ <http://aogaku-doso.jp> をご覧ください。

お問い合わせ先

青山学院大学同窓祭実行委員会事務局
TEL.03-3409-8990
e-mail:alumni@netlaputa.ne.jp

2008年度、全学部にわたって新しい入試を実施します。

入試改革
新ポイント

1

新学部・新学科で募集開始(予定)

2008年4月、総合文化政策学部、社会情報学部を設置し、経済学部
に新しく現代経済デザイン学科を開設する予定です。

2

学科同時エントリー方式を新設

国際政治経済学部的一般入学試験に新しい方式が加わります。

3

センタープラス方式を新設

本学独自の「個別学力検査」と「大学入試センター試験」の科目
の総合点で合否判定を行う方式で、法学部、理工学部で実施します。

4

大学入試センター試験利用入学試験を「文学部」で実施

文学部フランス文学科・史学科で新規に募集を行います。

5

大学入試センター試験利用入学試験に「後期日程」を新設

法学部・経営学部・国際政治経済学部・理工学部で募集を行います。

※各入学試験の詳細については、大学HPをご覧ください。



News Index 2007.4~2007.6

2007年4月~6月までに大学ウェブサイトで掲載されたニュースの主なタイトルを掲載しています。

07年3月

- 能登半島地震で被害にあわれた方へのお見舞いとお知らせ
- 2006年度 学生表彰が行われました

07年4月

- 「AGU on Video —映像で知る青山学院大学—」を公開
- 総合文化政策学部、社会情報学部(2008年4月設置予定)および経済学部現代経済デザイン学科(2008年4月開設予定)のオリジナルサイトを公開しました
- 国際マネジメント研究科 Ph.D. / DBA プログラム入学試験説明会(4/28)開催のお知らせ
- AGU NEWS VOL.36発行(PDF)
- 日本文学科の對馬綾香さん(2007.3月卒業)が第12回「前田純孝賞」学生短歌コンクールで新潟県教育委員長賞を受賞
- 本瀬陽介君(理工・経シス4年)が日本経営工学会、平成18年度優秀学生賞を受賞

07年5月

- 「青山学院スタイル」に、あさのあつこさん登場
- AGU NEWS VOL.37発行(PDF)
- 第1回ESSCで10名の本学学生の作品が、優秀賞などに選ばれました
- 「AGU on Video —映像で知る青山学院大学—」に新コンテンツ、新学部、新学科紹介と学長あいさつが加わりました
- 麻疹(はしか)の感染についての注意
- 文部科学省の「平成19年度ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に先端技術研究開発センター(CAT)で推進する研究プロジェクトが選定されました

07年6月

- 理工学部4年生の石井聡美さんが、「第35回裏千家ハワイセミナー」に招待されました
- 会計プロフェッション研究科、入試説明会・個別相談会開催のお知らせ

前期終了科目成績通知について

9月15日(土)~10月31日(水)に各キャンパス内設置の学
内情報端末または学生証リーダー付PCにて各自の成績通知書
を閲覧の上、印刷しておいてください。

アドバイザー・グループ紹介 12

英語と国際感覚を身につけよう! <米山アド・グル>

私のアド・グルの主な活動目的は、実用的な英語力を身につけ、異文化交流に必要な国際感覚を養うこと。といっても授業ではありませんから、あくまでもカジュアルな雰囲気の中、英語でのコミュニケーションを楽しんだり、海外の文化や慣習について語り合ったりしています。月1回の国際交流パーティー(都内各所)と週1回の英語勉強会(相模原キャンパス)が基本的な活動内容ですが、TOEIC・TOEFLのスコアアップを目指す勉



強い学生はぜひ顔を出して
てください。私自身UCLAへの留学経験があり、留学経験を持つメンバーも多いので、留学相談や留学生活に関する実践的なアドバイスができます。また、理工学部教員である私の専門分野に関連する“ロボット”に興味がある人も歓迎します。

強会や新年、クリスマスなど季節ごとの食事会なども行っています。英会話や外国人を含む多くの人とのコミュニケーションに興味がある人はもちろん、海外留学や海外で働くことを希望する学生はぜひ顔を出して
てください。私自身UCLAへの留学経験があり、留学経験を持つメンバーも多いので、留学相談や留学生活に関する実践的なアドバイスができます。また、理工学部教員である私の専門分野に関連する“ロボット”に興味がある人も歓迎します。



理工学部 米山 淳 准教授

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

- なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

青山キャンパス→学生部厚生課
事務取扱窓口
相模原キャンパス→学生部厚生課